

# 生活者通信

## 「いままで」と「これから」

生活者通信編集部

自民党の長期政権の時代には与党である自民党という政党やそれに属する政治家の金権腐敗や癒着などが問題になった。昨今は大蔵省や厚生省が問題になっている。しかしこれは個々の政党や政治家・役所や役人の悪事に対する批判でしかない。時代を見る目の基本的な立場からの反省は不足している。そこで自民党の長期政権の時代、すなわち経済的には主として高度成長の時代について考え直してみよう。

注意しておきたいのはこの時代というのは「政治は効率的であった」ということである。政府が国民に対して与えるべきものの中で基本的なものは平和・治安・健康・教育、そして経済的な繁栄などであるが、これらの各項目に関しては戦後50年の日本政府の実績は極めて高い。すなわち日本の政府は、政府が国民に与えるべき項目のほとんど全てにわたって世界最高の水準の成果を国民に提供したのである。

しかし従来のやりかたは役割を終えた。自明な目標に向かったの「追い付き追い越せ」式の復活を望むことはできない。今後の日本は「何を目標にするか」ということから議論しなければならないのである。目標に向かつて一心不乱に取り組んで達成の効率だけを考えていれば良いという時代は戻っては来ない。私たちはその意味でしんどい時代に直面しているのだ。そして、冒頭に述べ

た自民党長期政権の時代の大きな特徴は、明確な目標に対して効率よく対処するための体制であったということである。時代は変化し、違った仕組みが必要とされている。このことを忘れないようにしなければならない。

NHKの大河ドラマ「秀吉」の作者である堺屋太一が、別の局のTV番組の中で「夢を超えた男」という副題について語っていた。それによると「秀吉の前半生は信長によって目標を与えられ、これが秀吉の『夢』であった。信長の死後に秀吉自身が天下を取った後もしばらくの間は以前の目標を変更することなく進むことができた。しかし新しい目標を見つけることができなかつた豊臣政権は従来のパターンの延長としての朝鮮出兵をなどによって没落の端緒を招き寄せた。このことを現在の日本にダブらせて描きたい」とのことである。傾聴すべき意見だと思われる。

「生活者通信」は、大きな変化に直面した時期にあたって、読者各位が自分自身の立場から政治と社会を見直すヒントや情報源としての役割を果たしたいと考えている。今号にも癒着の問題や廃棄物処分場に関する記事を掲載したが、それ以外にも多くのイベントが企画され実施されている。これらの中からの、政治を考えるヒントを見つけたして頂ければ幸いである。

## 生活者通信 第8号 目次

- 1頁 「いままで」と「これから」
- 2頁 悪魔のトライアングルを解体しよう!
- 3頁 伊藤達也氏から推薦依頼がありました
- 4頁 住専集会 報道総括
- 5頁 **Opinion** 「日の出町のゴミ処分場問題の現状」
- 6~7頁 イベント・集会情報、女性のためのパソコンセミナー
- 8~10頁 平成維新を実現する都民の会 第8回 運営会議議事録
- 11頁 「東京代表世話人・各区代表世話人/委員会委員長・副委員長」名簿
- 12頁 第2回 全国協議会 議事録

## 「平成維新を実現する都民の会」

### 第2回総会開催のお知らせ

第2回総会が7月14日(日曜日)の午後開催されることになりました。場所は、大井町駅前キュリアンです。詳細は未定ですので、5月号・6月号でお知らせします。

時間がたつのは、はやいもので都民の会が結成されてから1年が経とうとしています。この会の発展、平成維新の実現に向けて有意義な総会にいたしましょう。